

第6話

日本の公的年金は「^ふか^か賦課方式」
～どうして積み立てておけないの？



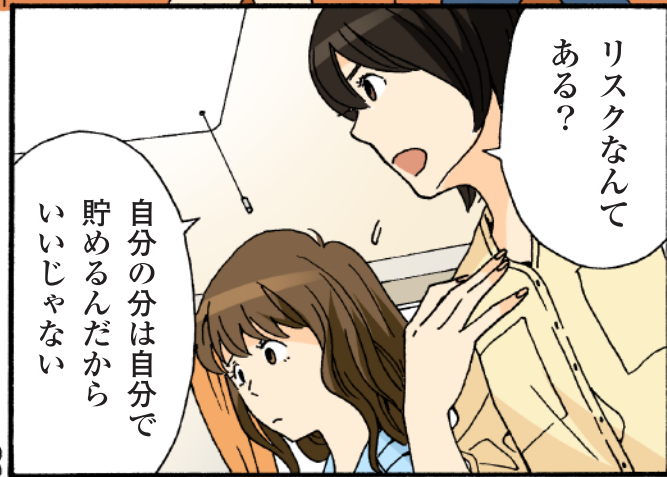
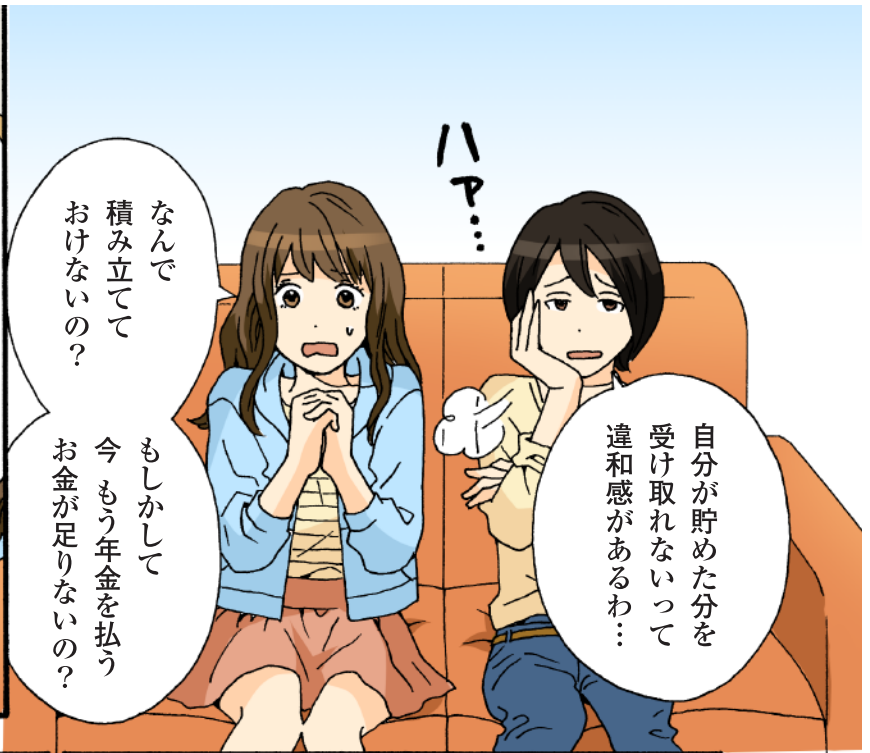
積立方式じゃないのは、
もしかして財源が足りないから？

公的年金では、積立方式のリスクを避けて、
賦課方式を採用しつつも、積立方式の
いいところも取り入れています



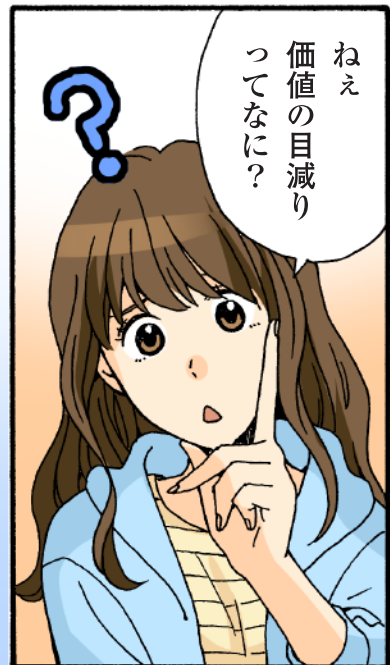
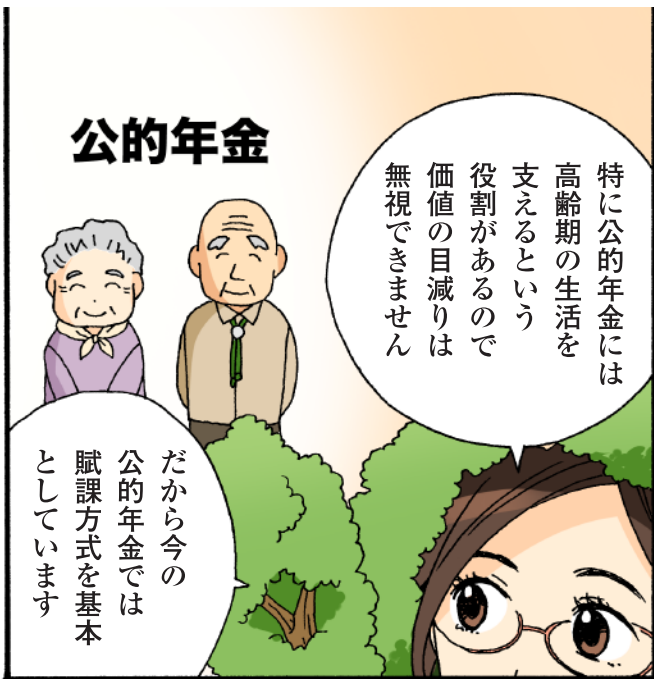
いっしょに**検証!**公的年金

～ 財政検証結果から読み解く年金の将来 ～

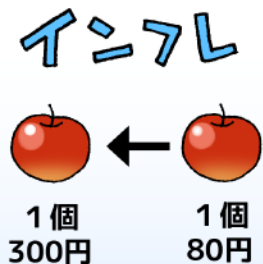


積立方式の特徴	賦課方式の特徴
<ul style="list-style-type: none"> ○ 民間保険と同様に、現役時代に積み立てた積立金を原資とすることにより、運用収入を活用できる ○ インフレによる価値の目減りや運用環境の悪化があると、積立金と運用収入の範囲内でしか給付できないため、年金の削減が必要となる 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 社会的扶養の仕組みであり、その時の現役世代の（給与からの）保険料を原資とするため、インフレや給与水準の変化に対応しやすい（価値が目減りしにくい） ○ 現役世代と年金受給世代の比率が変わると、保険料負担の増加や年金の削減が必要となる
<p>（ 少子高齢化で生産力が低下した影響はいずれも受けるが、積立方式は運用悪化など市場を通して、賦課方式は保険料収入の減少などを通して受ける。 ）</p>	





それまで
積み立てていた金額が
まったく役に立たなくなっ
てしまう可能性があります



たとえば短期間で
急な物価の
上昇(インフレ)が
起こった場合

